

平成14年度 高等学校教育課程実施状況調査の結果のポイント

資料 2 - 1

旧学習指導要領（平成元年告示）の下での高校生の学習状況を把握するため、10万5千人（8%）の高校3年生に対し、平成14年11月に学力調査（ペーパーテスト、アンケート調査）を実施

対象教科は国語、数学、理科（物理・化学・生物・地学）、英語の4教科7科目
地理・歴史、公民は平成15年11月に実施

設定通過率とは、学習指導要領の内容について標準的に学習活動が行われたと想定した場合の、正答または準正答の割合

国語、英語の2教科において、設定通過率と比較して上回るまたは同程度と考えられる問題数が半数以上
数学、理科の2教科において、設定通過率と比較して上回るまたは同程度と考えられる問題数が半数未満

国語

自分の考えを書いたり、文章の要旨を読み取ることは身に付いている意見を筋道立てて述べる力や、自分の考えを深めたりまとめたりする力は不十分

話し合い、発表、討論などを意図的、計画的に指導に取り入れ、論理的な思考力を育成する指導を工夫

数学

順列や組合せなどを扱った個数の処理の記述式の問題では解答しようとした生徒が多く、比較的無答率が低い
高等学校で初めて学ぶ三角比の記号の意味の定着が不十分

実生活との関連を図った指導や生徒一人一人の考えを生かすような指導、生徒が自分の考えを比較・検討するような指導を工夫

理科

観察や実験の結果やグラフを読み取り、思考・判断する力が不十分
記述式の問題で無答率が高い
基礎的事項や概念のうちの一部（原子を構成している粒子など）で理解が不十分

目的意識をもった効果的な観察や実験を行う指導や、データを正しく読み取る指導、コンピュータ等を活用した指導、生徒の理解に応じた指導を工夫

英語

英語を聞いて理解することはある程度できる一方で、相手の話しかけにこめられた意図をとらえて適切に応答する力は不十分
短い文は書けるが、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が不十分

具体的な場面や状況にふさわしい表現を使って応答したり、まとまりのある一定量の文章を書かせるような指導を工夫

アンケート調査とペーパーテストの結果の関係から

学ぶ意欲の高い生徒、基本的な生活習慣が身に付いている生徒、新聞やインターネット等を情報の入手に活用している生徒ほど得点が高い傾向

発展的な課題を取り入れた授業や放課後などの補充学習を受けている生徒ほど得点が高い傾向